

学校長通信 No.18

平成 27 年度 1 学期終業式 オーラを身につける

先日、大阪府警本部の部長さんから危険ドラッグやその怖い誘惑の方法について、みんなでお話を伺いましたが、危険がすぐそばに何気なく転がっているような不気味さを感じましたよね。他人事だと思っただけで無防備でいると、気が付いたら逃げられないように絡めとられている。テレビの話と思わず、どれだけ身近の事と思えるかが重要なんだと思います。夏休みは普段できないようないろんなことに挑戦できるアグレッシブな時間ですが、逆にディフェンスが甘くなってスキをつかれる危険が大きい時でもあります。その怖さも含めて、この後、生徒指導の先生から夏休みを迎えるにあたって、ということでお話があると思いますが、なぜ「規則正しい生活をしよう」「服装の乱れを整えよう」と何度も何度も繰り返し同じ話があるのか。今日は、それについて考えてみたいと思います。

例えば、学校ではいろんな指導をします。どんな指導かここで細かくは言いませんが「ほっといてほしい。自分のことは自分でするから。」そう思ってる人もいるかもしれませんね。でも先生方の思いは少し違います。先生たちは大人です。大人は世の中の目がどれだけ冷たいか、どれだけ多くの人がかたがた興味本位の目で君たちのことを見ているか、それをよく知っています。なかには、よこしまな気持ちで君たちを眺めている怖い目もあります。そんな目からみんなを守ろうと必死なのです。大変残念ですが、世間は人を見た目で判断します。なぜかと言うと、その辺にいる誰かれとなく話をしたり、いっしょに何かしたりするわけではないので見た目で判断するしか方法がないからです。世間の目ってそんな曖昧なものです。先生方はそれをよく知っているので「うちの生徒、うちの学校をそんな風には言わせない。守り切る。」そう思っているのです。

本当は、わざわざ他人に嫌われそうなことを言いたい人間はいません。どうしたってみんなに嫌がられそうなことを何度も繰り返し言うのも辛いものです。また、生指週間以外、普段あまり厳しく言われないうちの先生もおられるかもしれませんが、それもそれでいいと思って黙っておられるわけではありません。期間中には言うけれど、あとはみんなが自分で気がつくのを待とう、そういう気持ちでおられるだけです。先生は自分の都合で言ってるんじゃないし、先生によって考え方が違うのでもない、そこをちゃんと分かってほしいなと思いますし、多分、日根野高校の生徒はみんな分かってくれると思っています。

私が思うのに、日根野高校は、生徒も先生もびっくりするぐらい「いい子いい人」が集まっています。いい人というのは、良識があって他人への思いやりがある人という意味です。校長先生は、そんないい生徒と先生に囲まれていて、その全員を守る義務を背負っています。だから、言います。学校で決めたルールは守ろう。意味もなく決められたルールはひとつもありません。そして、本当に大切なことは見ための体裁を整えるだけではなく、良識と誠実さを感じさせるオーラを身につけること。それは、きちんとルールを守り続けることでしか身に付くものではないと思います。大事なことは私たちの持っているオーラです。黙っていても伝わってしまう「たたずまい」です。ちょっと恐ろしいことですが、その時だけのごまかしは効きません。でもだからこそ、きちんと身につけてしまえば、黙っていても光り輝く一生ものの財産になります。私もそれをめざしていますので、みんなにも一緒にめざしてほしいと思います。

では、健康には十分気をつけて、2学期にはみんな元気に学校に戻ってきてください。待ってます。